

佐賀県教育委員会

平成 19 年度 佐賀県小・中学校学習状況調査

平成 20 年 2 月 21 日

学習状況調査を生かした 授業改善へのアプローチ

～学習状況調査の結果概要とその活用法について～



学習状況調査の結果概要とこれらの結果を生かした
これからの授業改善のプロセスが分かります。

〈主な内容〉

- 1 学習状況調査の結果を踏まえた授業改善に向けたプロセス
- 2 平成 19 年度 学習状況調査の結果概要(各教科)
- 3 学習状況調査の活用法 Q & A

学習状況調査結果の公表から授業改善までのプロセス

PDCAサイクルのCheck・Actionから新たなPlanへ



調査結果の概要（各教科）

（小学校）

国語 書く活動と多読につながる指導を

「書くこと」については全体的に成果がみられる。特に「書く活動」や「多読につながる指導」を意識的に多くの単元で取り入れている学校の児童は、全領域において国語の力が付いている傾向にある。「読むこと」については課題がある。特に読み取ったことをもとに自分の考えを書くことが十分でない。文章の中で漢字を使うなど言語事項については成果がみられる。

社会 発表・討論・書く活動の重要性

すべての評価観点、内容・領域において概ね成果はみられるが、「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」の2つの観点においては今後さらなる伸長が望まれる。発表する活動、討論する活動、文章で記述する活動に意欲をもって取り組めるように手だてを工夫することが、児童の思考・判断力や技能・表現の向上につながると考える。このように活動の充実と活動に対する児童の意欲の喚起が望まれる。

算数 意欲を喚起する問題解決的な学習

すべての評価観点、内容・領域において概ね成果がみられる。特に「図形」領域においては基礎的な事項の理解が十分になされている。今後の指導に当たっては自分の考えを述べたり、知識を活用したりする力のさらなる伸長が望まれる。問題解決的な学習を取り入れた授業の充実や問題解決的な学習に対する児童の意欲の喚起が今後の課題である。

理科 話し合い活動と結果の考察が鍵

多くの評価観点、内容・領域において十分に成果がみられる。それ以外も概ね良好で、特に、「観察・実験の技能・表現」においてはその成果が顕著である。実験結果をまとめる過程で、話し合い活動を積極的に取り入れ、考えを広げたり深めたりする指導を意図的に行うのがキーといえる。話し合い活動に対する児童の意欲が高い傾向の学校では技能・表現、知識・理解の定着がより確かである。



（中学校）

国語 読書習慣の定着を

「書くこと」については1年生において成果がみられる。特に、自分の考え方や意見を表現する言語活動を意識的に取り入れ、生徒の書こうとする意欲や態度を育てている学校の生徒は「書く能力」が高い傾向にある。「読むこと」については課題がある。図書の多読につながるような授業の実施などを通して、生徒の読書習慣の定着が望まれる。

社会 発表・討論活動の質的な高まりを

「地域の規模に応じた調査」の内容・領域においては成果がみられる。1年生では評価観点、内容・領域において概ね成果はみられるが、2年生においては課題がある。特に「社会的事象についての知識・理解」が十分ではない。「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」については、2学年とも今後さらに伸長する必要がある。発表する活動・討論する活動を取り入れた授業の質的な高まりが望まれる。

数学 問題解決的な学習の充実

すべての評価観点、内容・領域において概ね成果がみられる。問題解決的な学習を取り入れた授業、数学的活動を取り入れた授業、発展的な課題を取り入れた授業の実施は「数学的な見方や考え方」をはじめとしてすべての評価観点により効果をもたらしている。今後のさらなる向上につなげるためには、このような授業の充実と学習活動に対する生徒の意欲の喚起が望まれる。

理科 科学的な思考は改善

すべての評価観点、内容・領域において概ね成果がみられる。特に、今まで課題とされてきた「科学的な思考」については昨年と同様に改善傾向にある。また、「大地の変化」の内容・領域においては十分な定着がうかがえる。課題としては、2年生における「自然事象への関心・意欲・態度」が挙げられる。発展的な課題を取り入れた授業、発表や話し合いなど表現し、考えを広げたり深めたりする活動のさらなる充実が望まれる。

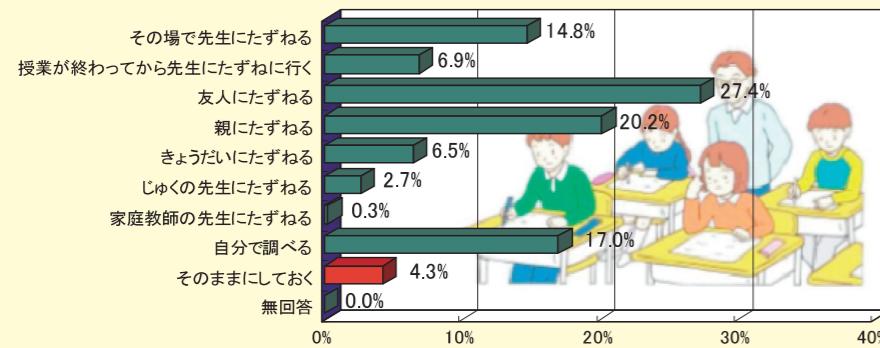
英語 表現活動のバランスが鍵

評価観点「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」、内容・領域「聞くこと」「読むこと」においては概ね成果がみられる。評価観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「表現の能力」、内容・領域「書くこと」については課題がみられる。英語学習に対する興味・関心の高さと英語の学力には強い相関がみられることから、生徒の英語学習に対する意欲を喚起する工夫が望まれる。また、表現においては、書く活動を充実させ、話す活動とのバランスを図ることも大切である。

子どもの意識と学力について考えてみよう!

Q1 子どもたちは授業で分からなったことがありますどうしているのだろう?

県内小学5・6年生 4教科の通過率80以上100以下の児童群

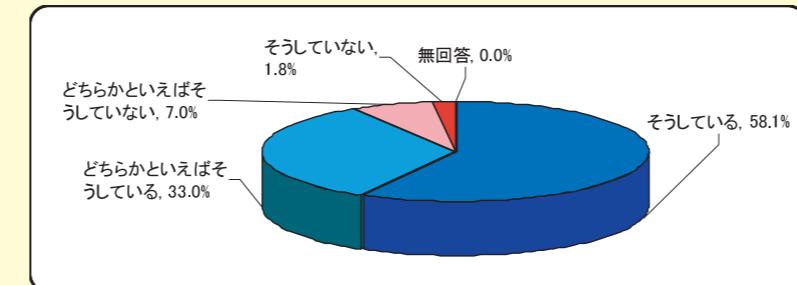


Q2 数学で、粘り強く取り組む態度と数学の力には関係があるのかな?

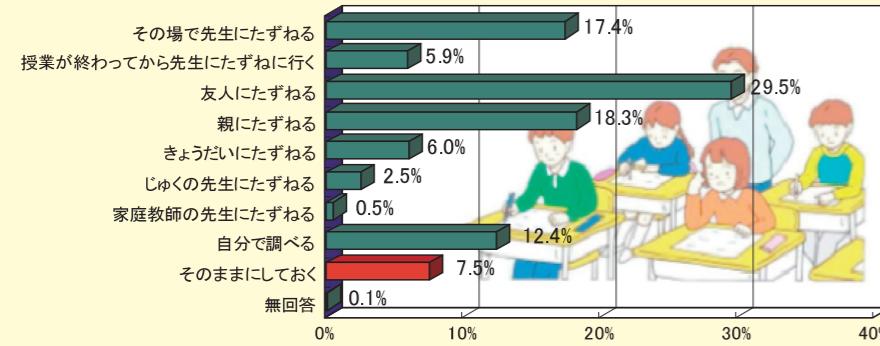
児童生徒意識調査 質問 24

数学の時間に、問題の解き方が分からなったときは、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか。

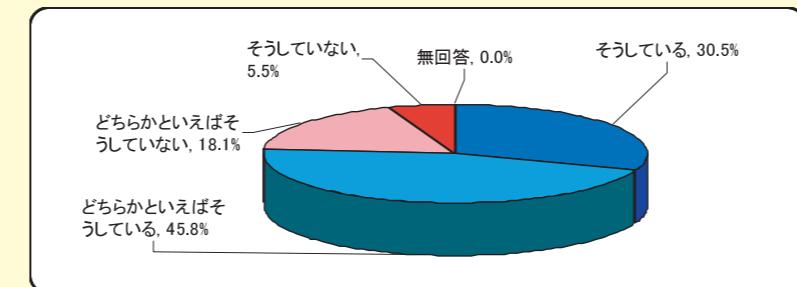
県内中学1・2年生 数学の通過率80以上100以下の生徒群



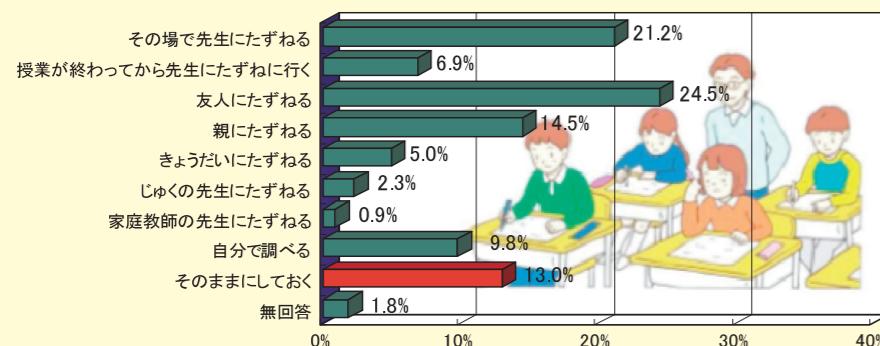
県内小学5・6年生 4教科の通過率40以上60未満の児童群



県内中学1・2年生 数学の通過率40以上60未満の生徒群



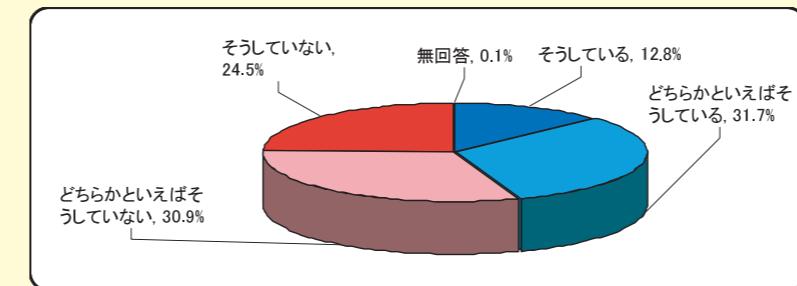
県内小学5・6年生 4教科の通過率20未満の児童群



※ここでは、通過率の 60~80% 及び 20~40% の層は省いています。

全体の傾向はさほど変わりません。しかしながら、着目すべきは「そのままにしておく」と回答している子どもの割合です。通過率が低いグループほど「そのままにしておく」子どもの割合が増えています。分からないうちからそのままにしておくのか、そのままにしているから分からなくなるのかははっきりしませんが、いずれにしても負の循環が生まれ、学習が滞っている様子がうかがえます。これらの子どもたちをしっかりと把握し、一人一人の子どもに対する教師の支援が必要と思われます。

県内中学1・2年生 数学の通過率20未満の生徒群



※ここでは、通過率の 60~80% 及び 20~40% の層は省いています。

数学の時間に、問題の解き方が分からなったときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている子どもの割合は、数学の通過率が高いグループほど明らかに高いことが分かります。数学に関する知識・技能を確かに身に付けることは当然ですが、併せて難しくてもあきらめずに取り組む態度をはぐくむことも考えていく必要がありそうです。

これらはほんの一例ですが、このように教科の通過率だけではなく、子どもの意識調査の結果を関連付けてみると、いろいろなことが分かってくると思います。学習がうまくいっている子どもも、そうでない子どもの意識の違いは何なのか、どのような意識が学力の向上につながるのかということを考えることによって、ではどのような指導が必要であるのかということを考えるきっかけにもなると思います。Web 報告書の中でも、佐賀県全体にみられる教師の指導と子どもの意識、そして通過率から考えることができる学力について分析しています。ぜひ、参考にしていただき、先生方の目の前にいる子どものことを理解していただくために御活用下さい。



このページでお示したグラフのデータは右ページにあります諸調査・集計分析システムから得ることができます。(Dの児童生徒意識調査分析を用いました。) 県全体のデータだけでなく、各学校の学年・教科のデータを得ることができますので、自分の学校の自分が指導している学年の子どもたちの意識と通過率との関連についても分析することができます。その他にも、設問ごと、評価観点別、内容・領域別の通過率や意識調査の回答状況もデータとして得ることができます。ぜひお役立て下さい。

平成 19 年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果についてまとめた Web 報告書につきましては、諸調査集計・分析システム上に公開しています。教職員ポータルからログインして、ぜひ御覧になって下さい。

本リーフレット及び Web 報告書についてのお問い合わせは、佐賀県教育センター研究調査担当までお願いいたします。

Tel 0952-62-5211 (内線 396) / kenkyu@saga-ed.jp



諸調査集計・分析システムではこんなデータが得られます！！

- ① 佐賀県教職員ポータルにログインします。職員番号とパスワードが必要です。
- ② **諸調査集計・分析システム**にログインします。
- ③ **各種分析データ**のリンクをクリックします。

○ 分析・検証・改善に活用する資料(常時表示します)
学校提出処理後、次年度まで表示します。

- **クラス別通過率**
クラス・学年・県の通過率と到達基準が、内容・領域別及び評価観点別に指導法改善に役立つ教材・指導案・実践事例・研究物・手引書へのリンク
- **教科別通過率**
クラス・学年・県の教科通過率と到達基準が表示されます。
- **児童生徒意識調査分析**
学校・県それぞれの児童生徒意識調査と教科通過率とをクロスさせた集計れます。
クリック!!
- **設問毎通過率ダウンロード**
クラス・学年・県の設問毎通過率を集計したCSVファイルがダウンロードできます。
- **児童生徒意識調査ダウンロード**
学校・県それぞれの児童生徒意識調査結果をCSVファイルでダウンロードできます。

• 教科ペーパーテスト未受検者一覧
• 児童生徒意識調査未受検者一覧
• 入力状況確認・提出処理
• **各種分析データ**
• ログインユーザー一覧
• 平成19年度問題構成表・解説のダウンロード
• **平成19年度調査報告書**
• ログアウト

諸調査集計・分析システムトップ画面

【説明】

A 平成 19 年度調査報告書（Web 報告書）

今年度の調査の概要、調査結果の概要、教科ごとの分析などについてまとめた平成 19 年度調査報告書が閲覧できるようになっています。平成 19 年度調査報告書のリンクをクリックしてください。

B クラス別通過率

学年と教科を選択し、内容・領域別または評価観点別を選択して**表示する** のボタンをクリックすると選択した学年・教科のクラス別・学年・県の内容・領域別もしくは評価観点別の通過率と到達度の基準を見ることができます。内容・領域または評価観点ごとに指導法改善に役立つ資料集へのリンクがあります。

C 教科別通過率

学年と教科を選択し、**表示する** のボタンをクリックすると選択した学年・教科のクラス別・学年・県の通過率と到達度の基準を見ることができます。

D 児童生徒意識調査分析

学年と教科を選択し、表示種別で**本校**をクリックした上で、**表示する** のボタンをクリックすると選択した学年・教科における通過率ごとの意識調査の回答者数(の割合)を見ることができます。教科で**全教科**を選択すると、回答者数は全教科の延べ人数で示されます。表示種別で県をクリックすると県全体の結果もみることができます。また、**CSV ファイルのダウンロード**をクリックすると、表示したデータがエクセルで加工できるデータとして取り出せますので、学校のクロス集計の結果をグラフ化したりするのに便利です。

E 設問毎通過率ダウンロード

学年と教科を選択し、**ファイルをダウンロード** をクリックすると、クラス・学年・県の設問ごとの通過率が CSV ファイルでダウンロードできます。結果をグラフ化したりするのに便利です。

F 児童生徒意識調査ダウンロード

学年を選択し、**ファイルをダウンロード** をクリックすると、クラスごとに児童生徒一人一人の回答状況が CSV ファイルでダウンロードできます。結果をグラフ化したりするのに便利です。

G 評価観点、内容領域別通過率ダウンロード

学年と教科を選択し、表示種別で内容・領域別または評価観点別を選択して、**ファイルをダウンロード** をクリックすると、クラス・学年・県の内容・領域別または評価観点別の通過率と到達基準が CSV ファイルでダウンロードできます。結果をグラフ化したりするのに便利です。

学習状況調査の活用法 Q & A

Q 今回の学習状況調査で示されている到達基準はどのような方法で設定してあるのですか。

A 今回の学習状況調査では「十分達成」と「概ね達成」の2つの基準を示しています。これは、修正エーベル法という理論に基づいて設定しています。具体的には、各設問を「基礎的・基本的」と「発展的・応用的」、「平易」「普通」「困難」という2つの軸で分類し、それぞれの期待正答率を集約し、評価観点別及び内容・領域別の到達基準を算出したものです。これは、標準学力検査などにも使われている理論です。

Q 今回の学習状況調査からみられる自分の学校の児童生徒の状況を把握するためにはどのような手立てをとればよいのでしょうか。

A 各教科の通過率については、評価観点別と内容・領域別に表示できるようになっています。学年・学級の傾向や個人の傾向をつかむのに役に立つと思います。具体的にどの設問がどの程度できているかということも把握できるデータが各学校で取り出せますので、設問レベルでの分析もできると思います。また、通過率の結果だけではなく、授業に対する児童生徒の意識や授業を取り巻く学校生活や家庭生活の様子などを総合的に把握することが大切です。意識調査の回答状況や通過率と意識調査のクロス集計の結果なども取り出せるようになっていますので御活用下さい。

Q 学習状況調査の結果を授業の改善に生かすためにはどのようにすればよいのでしょうか。

A Web 報告書の第Ⅲ章 各教科の分析において、県全体における調査の傾向、成果と課題及びこれからの指導の視点などをまとめています。担当する学年・学級の状況と照らし合わせながら読んでいただくことをお薦めします。その中で参考にできることは、ぜひ日々の授業の中で取り組んでいただければと思います。各教科の分析の末尾から教育センターのリンク集にリンクを設定しています。ここでは、全国の優れた実践資料や指導案・教材などが発見できると思います。ぜひ御活用下さい。

Q 学習状況調査結果の個票を児童生徒に返却するときにはどのようなことに気をつけなければよいでしょうか。

A 基本的に個票の結果は評価観点別の結果を示していますので、各教科の評価観点についてはいくらか説明が必要になると思います。一番右側の欄に概要を記しましたが、各学校の指導の状況と照らし合わせながらより具体的な説明があるとよいと思います。また、帯グラフは「十分達成」「おおむね達成」「要努力」の目安を示しており、★印は個人の位置を示しています。保護者に対する理解を促すためには必要に応じて簡単な見方の説明を作成することもお薦めします。併せて、各教科の中で、特に課題となるような設問については児童生徒向けの解説（システムからダウンロードできます。）の中で取り上げています。ぜひ、児童生徒に配布いただけたらと思います。先生方については Web 報告書の第Ⅲ章 各教科の分析を参考にして下さい。学級・学年の状況を把握された上で必要と思われる部分については、できれば授業などでも取り上げていただければと思います。

Q 学習状況調査で実施された意識調査の結果を学級PTAや学年PTAの資料に使いたいですが、どのようにすればよいですか。

A 意識調査の結果は個人の回答状況だけでなく、学級や学年ごとの集計結果や通過率とのクロス集計結果などもデータファイルとしてダウンロードすることができます。（CSV 形式となっていますので、エクセル形式で保存し直してください。）エクセルで加工できますので、グラフなどの作成も比較的簡単にできると思います。

